

城西大学女子短大生の意識構造

後藤敏夫 駒崎 勉 堀江 光
中澤亘子 佐藤規子 藤田主一

〔I〕 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、城西大学女子短期大学部（以下「本学」という）の第1期生が、日頃の学生生活をどのような態度で送っているか、またそれをどのように感じているか、その実態と意識を分析することにより、その特徴を位置づけ、合わせて今後のよりよい学園生活の環境作りと教育指導上の参考に資するために実施した。

2. 調査の方法

別添のアンケート用紙を作成し、昭和59年4月中に各専攻別に実施した。当日の欠席者を除き、239名の提出があり、回収率は、89.8%であった。これを専攻別にみると、経営実務専攻（以下「J」と略称する。）は57名(85.1%)、秘書専攻（以下「H」と略称する。）は61名(92.4%)、日本文学専攻（以下「N」と略称する。）は61名(89.7%)、英米文学専攻（以下「A」と略称する。）60名(92.3%)であった。

3. 調査の内容

調査の内容は、次の5つの観点から構成した。

- (1) 基本属性（専攻別、年齢、出身高校、居住地、通学形態、通学時間、世帯主の職業、生活程度、こづかい、運転免許、アルバイト歴等）
- (2) 大学や学生生活に対する基本的意識（本学への認識、学生生活の満足度、生きがい、クラブ活動等）
- (3) 男女の役割や職業に対する意識（男女の社会的役割、就業予想年数、職業の選択）
- (4) 講義や教師に対する意見（講義の評価、受講態度、試験、ゼミ・オン・ライフ）
- (5) 日常生活の実態（教養、趣味嗜好、スポーツ、行動パターン、友人関係等）

4. 調査日程

アンケート用紙の作成……59年1月～3月

調査の実施……59年4月

アンケートの集計……59年6月～7月

報告書の作成……59年8月～9月

〔Ⅱ〕 調査の結果

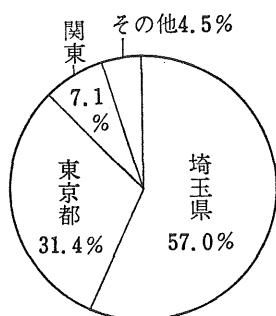
A. 学生の基本属性とその背景

1. 年 齢

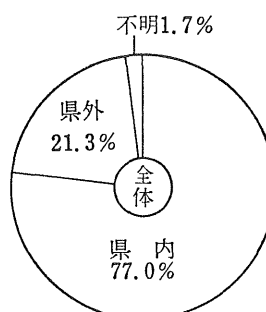
19歳が圧倒的に多く239名中199名(83.2%)を占め、ついで20歳が31名(13.0%) 21歳が9名(3.8%)の分布を示している。これは、本学の学生のほとんどが高校からストレートに進学していることを意味する。

2. 出身高校の所在地

埼玉県内の高校出身者の136名(57.0%)が過半数を占め、ついで東京都が75名(31.4%)、埼玉、東京を除く関東地方が17名(7.1%)であり、その他の地方出身者は僅かに11名(4.5%)に過ぎない。



第1図 出身高校の所在地



第2図 居住状況

3. 居住状況

現居住地についてみると、埼玉県内居住者が77.0%を占め、県外が21.3%、無記入者が1.7%である。また、自宅からの通学者が90.4%を占め、自宅以外の通学者は9.2%である。自宅以外の通学者のうち、68.2%がアパートもしくはマンションに一人住まいをしている点が注目される。

4. 通学所要時間

通学に1時間以上1時間30分未満をかけている者(28.5%)と、1時間30分以上2時間未満をかけている者(28.5%)が同数で、両方で過半数を占め、ついで30分以上1時間未満(19.2%)、

2時間以上(12.5%), 30分未満(11.3%)となっている。本学の立地条件からみて, 1時間30分以内の者が総計59.0%となっているのは, 概ね妥当なところとみてよいと思われる。

第1表 通学所要時間

	30分 未満	1時間 未満	1時間30分 未 満	2時間 未満	2時間 以上
全体	11.3%	19.2%	28.5%	28.5%	12.5%

(注) 全体とは, 専攻別に対し, 総員の集計をいう。(以下, 文中及び図表において同じ)

5. 世帯主の職業

全体でみると, 会社員の134名(56.1%)が過半数を占め, ついで商工自営業が43名(17.9%), 公務員が25名(10.5%), 自由業が13名(5.4%), 農林水産業が9名(3.8%), 教員が3名(1.3%), その他が12名(5.0%)の分布を示している。これを専攻別にみると, Jでは商工自営業が36.8%を占めており, Hでは, 会社員が67.2%を占めているのが注目される。

6. 生活程度

73.2%が「中」と答え, 「中の上」と「中の下」を併せると97.5%を占めているのは, いわゆる「一億総中流」の意識がそのまま反映しているものといえよう。そのうち, 「中の上」と意識しているものが20.5%に達しているのをみると, 本学の学生の中流意識は, やや上寄りとみられる。専攻別にみると, Jが「上」と「中の上」で他の専攻より明らかに多く, これは「世帯主の職業」で「商工自営業」が多いことと関連があると推測される。

7. こづかい

家賃その他の生活費を除き, 本人の自由に使える「こづかい」(月額)は, 全体でみると第5図の分布を示している。これを各区分の中位値(たとえば, 2万円以上3万円未満は2万5千円)に置換えて換算すると, 学生一人当りの総平均値は, おおむね, 2万7千円強と推定することができる。

専攻別にみると, Jにおいて2万円以下のものが36.8%と多い反面, 6万円以上も8.8%と全体を上廻っている外は, ほぼ全体と同傾向を示している。

第2表 世帯主の職業

		全 体
会 社 員	実 数	134
	%	56.1
公 務 員	実 数	25
	%	10.5
教 員	実 数	3
	%	1.3
農 林 水 産 業	実 数	9
	%	3.8
商 工 自 営 業	実 数	43
	%	17.9
自 由 業	実 数	13
	%	5.4
そ の 他	実 数	12
	%	5.0

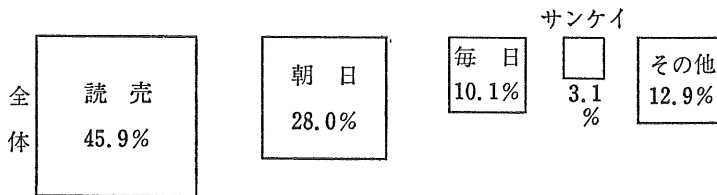
第3表 こづかい

	1万円未満 3.3%	1万円以上 2万円未満	2万円以上 3万円未満	3万円以上 4万円未満	4万円以上 5万円未満	5万円以上 6万円未満	6万円以上
全体		27.6%	25.5%	20.5%	12.6%	5.5%	5.0%

8. よく読む新聞・雑誌名

新聞については、全体で「読売新聞」が45.9%を占め、埼玉県への読売の進出ぶりがうかがわれる。第2位の「朝日新聞」と合算する73.9%とに達する。第3図中、「その他」には、「日本経済新聞」(J)、「東京新聞」(N. A.)の外、スポーツ新聞等が含まれているが、「日本経済新聞」がJにおいて第4位を占めているのは、世帯主の職業に「商工自営業」が多いことと関連するものと思われる。

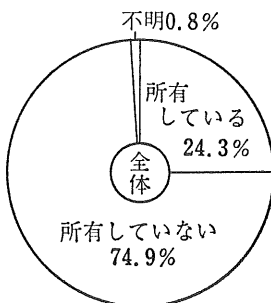
雑誌については、各専攻とも30種類前後の多岐にわたっているが、全体を通じて、can-can, non-no, JJ, an-an など若い女性向けの風俗誌が読まれており、JとHにおいては、「フォーカス」がベスト5に入っている。



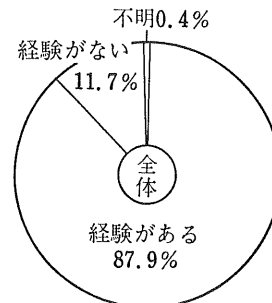
第3図 よく読む新聞

9. 運転免許と車・バイクの所有

運転免許を持つもの38.9%、車・バイクを持つもの24.3%となっており、「クルマ社会」の実情を反映していると思われる。専攻別では、Jが最も多く、運転免許47.4%、車・バイクの所有31.6%となっている。



第4図 車やバイクの所有



第5図 過去1年間のアルバイト

10. 過去1年間のアルバイト

全体でみると、経験があるものが87.9%、経験のないものが11.7%である。Jにおいて経験者が94.7%に及んでいるのが注目される。

アルバイトの期間は、2～3か月が最も多い。アルバイトの内容は、多種多様にわっており、なかでも販売員、ウエイトレス、一般事務、教育関係などが多い。

11. クレジット・カードの所有

全体でみると、クレジットカードを持っているものは36.4%、持っていないものが63.6%であるが、これを専攻別にみると、持っている率がやや高いのは、A(41.7%)、J(40.4%)であった。

B. 大学や学生生活に対する基本的意識

1. 本学の認知および適応度

(1) 本学を何によって知ったか

第4表に、短大生が本学を何によって知り得たのかについての結果を示した。最もその比率の高いものは「先生」であり、各専攻とも第1位である。なかでも、Aは過半数を占めている。いずれにしても、進路に関しては「先生」の影響が多であることがわかる。「広告・ポスター」「進学関係の本・雑誌」といったメディアによる情報が続いており、「親」から本学を紹介される割合はさほど高くない。

第4表 本学を何によって知ったか (%)

	経営実務	秘書	日本文学	英米文学
先生	48.5	39.2	44.3	54.8
先輩・知人	10.6	9.4	17.1	13.7
親	4.5	13.5	7.1	6.8
進学関係の本・雑誌	15.2	16.2	8.6	8.2
広告・ポスター	15.2	20.3	14.3	11.0
その他	6.0	1.4	8.6	5.5

(2) 専攻分野の適応度

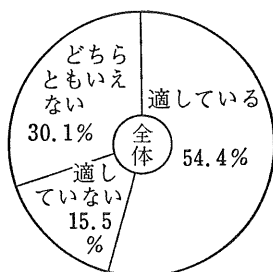
次に「選択した専攻分野はあなたに適しているか」という適応度に関して全体を単純集計したのが第6図である。集計結果をみると、「適している」と答えた人が54.4%で「適していない」と答えた人の3倍以上もいることがわかる。ところが、「どちらともいえない」と答えた人が30.1%おり、自分の選択した専攻分野についての適応判断がまだ出来ていないと思われる。

この問題を専攻別に分析したものが第5表である。表からわかるように、「適している」と答えた人はJが全体の平均を上回って最も高率で、以下、H、Nの順でAが最も低い。これに対して、「適していない」と答えた人は、NとAの2つの文学系統が全体の平均を上回っている。経営系統の2つの専攻は「適していない」が全体の平均よりも少ないものの、Hは「どちらともい

えない」という態度未決定者の多いのが特徴的である。

ここで、「適していない」と答えた人は、どんな理由をその根拠に挙げているのであろうか。全体のなかで有効な回答をまとめると以下の分類が可能であった。「授業の内容が合わない」「授業の内容に興味がない」といった授業の内容に関するものが全体の36.1%で最も多く、「自分の能力に合わない」「選択のミス」23.0%がこれに続いている。さらに、「勉強にやる気がおこらない」という動機づけの低下が11.5%、「興味の方向が変わった」9.8%、「将来の就職への不安」4.9%などとなっている。

以上の結果を総合的にながめてみると、過半数の人は選択した専攻分野に適応しているが、全体の3割は態度を保留している。また、適応していない人はその理由として、授業内容や自らの意欲のなさに問題を投げかけていることが理解できる。



第6図 全体の適応度 (%)

	適している	適していない	どちらともいえない
経営実務	68.4	12.3	19.3
秘書	52.5	9.8	37.7
日本文学	50.8	21.3	27.9
英米文学	46.7	18.3	35.0

第5表 専攻別の適応度 (%)

2. 大学生生活の満足度

(1) 入学前後のイメージの差

入学前に抱いていた本学に対するイメージと入学後の実際とは一致したのだろうか。第6表に集計結果を示した。全体的にみると、「一致した」「だいたい一致した」を合計すると37.7%で、「あまり一致しない」「まったく一致しない」の33.5%より多いことがわかる。「どちらともいえない」「わからない」という消極的な答えが3割近くある。

この結果を専攻別にクロスさせると、いくつかの特徴が見い出せる。全体の平均から比較して、Hは「だいたい一致した」イメージを持つ人が圧倒的に多く、「一致した」人を加えると過半数を越える。反対に、「一致しない」と答える傾向はNに多く、先の適応度と合わせて考えると興味深い。

(2) 大学生生活の満足度

次に「現在の大学生生活に満足しているか」についての結果を第7表に示した。全体的な結果をみると、約1/4の25.5%が不満足と答え、満足している人は2割に満たない。57.3%のものが、大学生生活に満足か否かはっきりした意見をもっていないのは、何を基準にしたらよいのか自分でも判断がつかないためと考えられる。

第6表 入学前後のイメージの一致度 (%)

	経営実務	秘 書	日本文学	英米文学	全 体
一 致 し た	1.7	1.6	3.3	0	1.7
だいたい一致した	33.3	49.2	27.8	33.4	36.0
あまり一致しない	28.1	26.2	32.8	23.3	27.6
まったく一致しない	3.5	8.2	6.6	5.0	5.9
どちらともいえない	21.1	8.2	19.7	18.3	16.7
わ か ら な い	12.3	6.6	9.8	20.0	12.1

専攻別では、Nに不満足な人が平均よりも多く、先の適応度や一致度と比較した場合、選択した専攻分野は適しておらず、また、入学後のイメージもあまり一致していないことがうかがえる。JおよびHは、態度の明らかでない人が6割を越え、大学生活の意味をまだつかみきれていないようである。

不満足な理由を述べた有効回答をまとめるといくつかの特徴が見い出せる。その理由として最も多くを占めたのは授業内容に対する意見で30.0%であった。以下、大学全体の空気や活気に関するもの22.9%，大学の場所や通学の便に関するもの22.9%，その他，クラブ活動や友人関係が続いている。

第7表 大学生生活の満足度 (%)

	満 足	不満足	どちらともいえない
経 営 実 務	14.0	21.1	64.9
秘 書	14.8	24.6	60.6
日 本 文 学	19.7	31.1	49.2
英 米 文 学	20.0	25.0	55.0
全 体	17.2	25.5	57.3

3. 短大生の考える生き甲斐とは

(1) 最も生き甲斐を感じることは

第7図からまず目につくことは、「一般教育科目の勉強」に誰ひとりも生き甲斐を感じない点であろう。さらに「専攻または専門科目の勉強」も極少で、短大生はいずれにしても「勉強」に正面から取り組んで専門知識を向上させることに対しては、さほど生き甲斐を感じていない。

短大生が生き甲斐を感じるのは、「友人との交際」や「学生生活のエンジョイ」など、入学後の開放感からくる現代学生気質が本学にも現われている。とはいうものの、NおよびAにおいて「社会経験や教養を養うこと」が全体の平均より高いことは文学科志望者の態度を反映しているものと思われる。

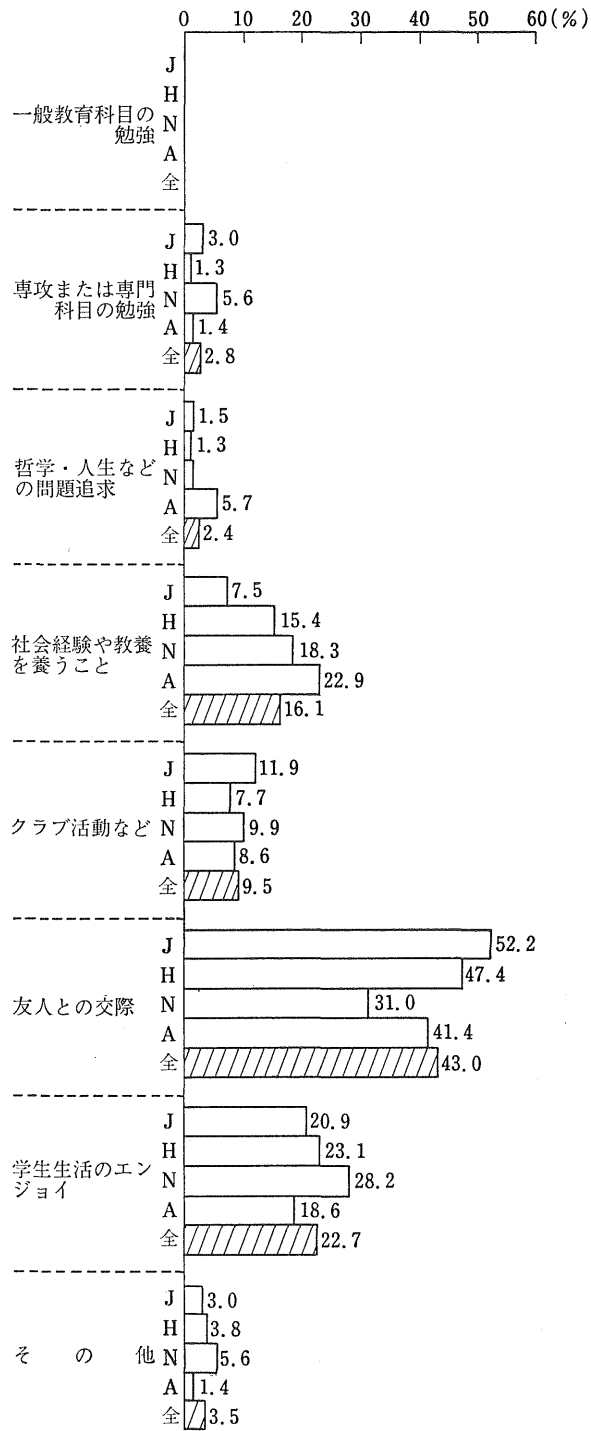
(2) 今一番に力を入れてやりたいが出来ないこと

第8表から、各専攻とも第一に挙げているのは「趣味・娯楽」である。「趣味・娯楽」の部類は日常生活の中で達成されていると思われたが、これは学生生活のエンジョイとは別物のようである。「勉強」「クラブ活動」などは十分その意思はあってもなかなか実行できないものとみえる。「友人との交際」は、先の生き甲斐観とほぼ一致しており、友人に関してはかなり充実しているらしい。「アルバイト」については専攻によりバラつきが大きく、Jが20.0%「出来ない」と答えているのに対し、Nは5.9%にすぎない。ここで問題となるのは「先生や家族とのコミュニケーション」といったパーソナルな関係について短大生は重要な位置を与えていない点であろう。特に、大学という場での先生との関係は、今後とも検討しなければならない課題であると思われる。

第8表 今一番に力を入れてやりたいが出来ないこと (%)

	経営実務	秘 書	日本文学	英米文学	全 体
勉 強	11.7	20.6	16.2	20.9	17.5
友 人 と の 交 際	8.3	4.4	11.8	4.5	7.2
ク ラ ブ 活 動	16.7	20.6	20.6	14.9	18.3
先生との コミュニケーション	8.3	2.9	7.3	6.0	6.1
家族との コミュニケーション	0	0	1.5	3.0	1.1
趣 味・娯 楽	28.3	35.3	32.3	34.3	32.7
ア ル バ イ ト	20.0	14.7	5.9	10.4	12.5
そ の 他	6.7	1.5	4.4	6.0	4.6

以上の結果の中から特徴的な（回答率の高い）事柄をまとめたのが第9表である。



第7図 最も生き甲斐を感じる事

第9表 専攻別の特徴

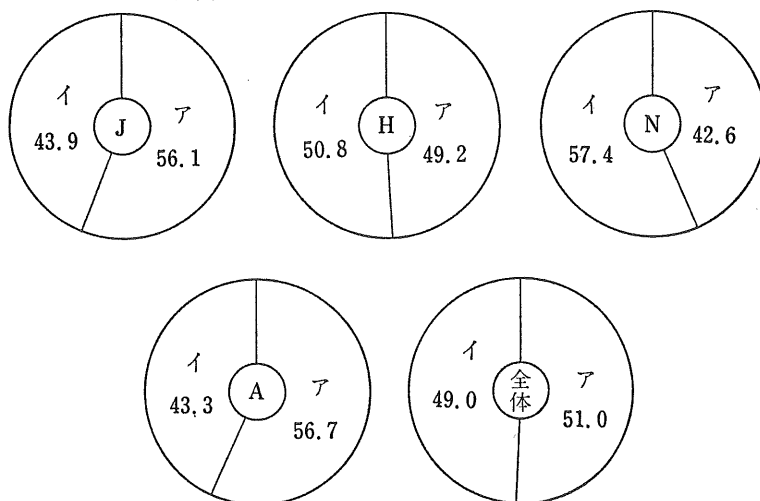
	本学を知ったのは	専攻分野の 適応度	本学のイメージ	大学生活の 満足度	生き甲斐	今一番に力を入れて やりたいこと
経営実務	先生	適している どちらとも いえない	だいたい 一致した	どちらとも いえない	友人との交際 学生生活の エンジョイ	趣味・娯楽 アルバイト
秘書	先生 広告・ポスター	適している どちらとも いえない	だいたい 一致した	どちらとも いえない	友人との交際 学生生活の エンジョイ	趣味・娯楽 勉強 クラブ活動
日本文学	先生 先輩・知人	適している どちらとも いえない	あまり 一致しない	どちらとも いえない 不満足	友人との交際 学生生活の エンジョイ	趣味・娯楽 クラブ活動
英米文学	先生	適している どちらとも いえない	だいたい 一致した	どちらとも いえない	友人との交際 社会経験や 教養を養うこと	趣味・娯楽 勉強

4. クラブ活動と学内行事への参加度

(1) クラブ活動への所属

学内のクラブ活動に所属しているかどうかの問いに対して、第8図に示したごとく、答はまったく二分されている。しかし専攻ごとにみた場合には、若干の差が認められる。クラブへの所属が最も多いのは、AとJであり、それぞれ56.7、56.1%を占める。これに対してNは42.6%であり、所属度が最も低いこれは専攻の性格の相違を表わしているものとみることもできよう。

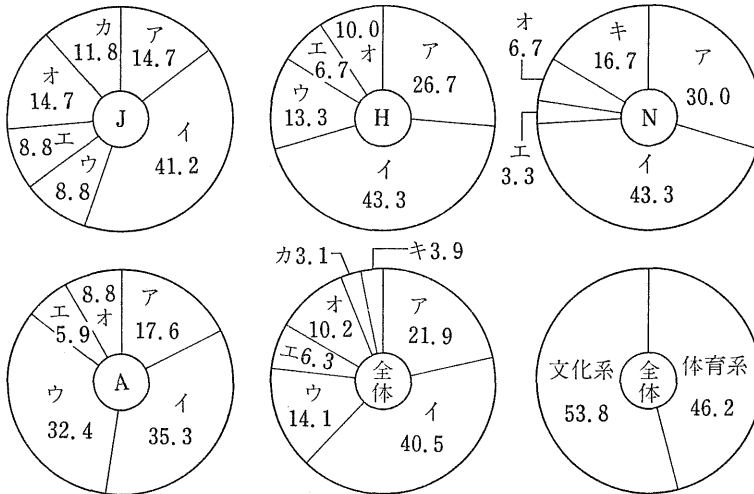
ア. 所属している イ. 所属していない (%)



第8図 学内クラブへの所属

たま，クラブに所属している者だけについてみた場合，第9図のようになっている。

ア．体育系クラブ イ．文化系クラブ ウ．体育系同好会
エ．文化系同好会 オ．体育系愛好会 カ．文化系愛好会
キ．短大の会（％）



第9図 所属クラブの種類

全体を通覧すると，やや文化系クラブの方が体育系クラブよりも多いが，大差ないことからバランスのとれた配分とみてよいであろう。さらに専攻別にみると，体育系の団体にはAが最大で58.8%，以下H，J，そしてNが最少の36.7%であり，一方，文化系団体はJが最大の61.8%，以下H，N，最少はAで41.2%の比率となっている。この様にAは積極的性格をみせ，Nは体育系を選ぶことが少ない。また，A専攻が本来，文学専攻の科でありながら，クラブ活動では文化系を選ぶことが少ないのは興味深い。勉学は文系を，課外ではスポーツを，といった多面的な活動性をもった学生が多いとみてよいのではないだろうか。また，N専攻が調査の時点では俳句，書道などを主に行う「短大の会」を多く選んでいることは専攻学科の性質上当然であり，また当該クラブの指導教員がN専攻に多く所属していることからであろう。なお，現在では，「短大の会」は上述したような活動にとどまらず，幅広い分野の活動をしている。

さらにクラブに所属していない理由についてみると，第10表にみられるように全体としては，「自分に適したクラブがない」「自由に過したい」「アルバイトがある」などが主な理由である。専攻別にみても，ほぼ同様な傾向であるが，しいていうと，N専攻に「学外のクラブに入っているから」というのが目立つ程度である。N専攻の学生が興味や趣味の多様性を示すゆえんでもあろう。また，「適したクラブがない」という最大の理由から考えても，女子短大の学生の要求にかなわなかったクラブを，今後つくり，育てていかねばならないことを示唆しているといえよう。

第10表 クラブに所属しない理由 (%)

項 目 *	J	H	N	A	全 体
1 経 済 的…	6.1		1.9		1.7
2 自 由 な…	33.3	34.1	22.1	24.4	27.8
3 勉 強 と…	3.0		1.9	4.5	2.3
4 アルバイ… ト	9.1	13.6	9.3	13.3	11.4
5 集団活動…	3.0		1.9	2.3	1.7
6 適 し た…	45.5	31.8	27.7	33.3	33.5
7 ク ラ ブ…		9.1	3.7	11.1	6.3
8 健 康 上…			1.9		0.6
9 学 外 の…		2.3	14.8	11.1	7.9
10 家 族 の…		2.3	1.9		1.1
11 そ の 他…		6.8	12.9		5.7

* 項目の詳細については、文末のアンケート用紙用参照のこと

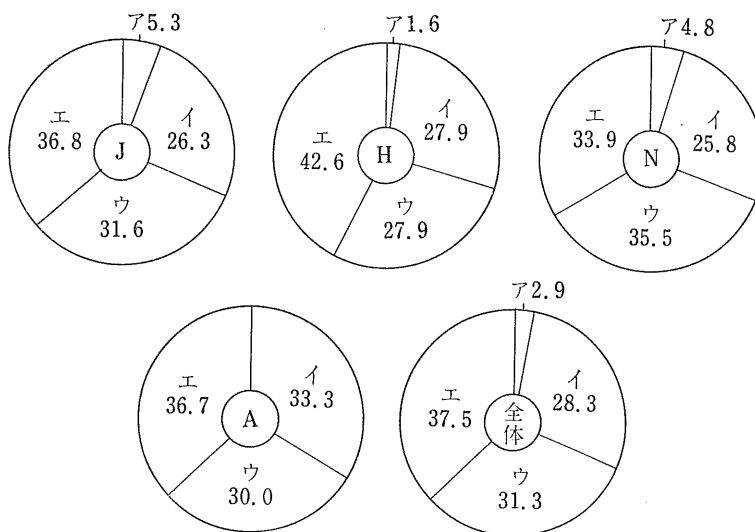
第10図 高麗祭への参加(%)

ア. 実行委員として参加

イ. クラブで参加

ウ. 一般学生として参観

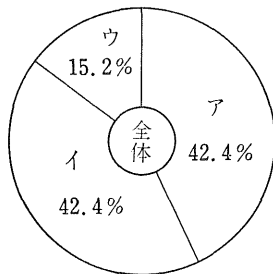
エ. まったく参加しなかった



(2) 高麗祭への参加

高麗祭とは、本学の文化祭で四年制大学で長い伝統をもっているもので、短大生にとって初めての機会である。

まず、何らかの形で参加した者は全体の $\frac{2}{3}$ を占めている。まずまずの数であろう。また、役員として、クラブ員として、積極的に参加した者は $\frac{1}{3}$ を占めている。これも短大が発足して初



ア. 興味がない

イ. その期間を他の目的に使う

ウ. その他

イ. の内容を具体的に調べてみると…

アルバイト

旅行

遊ぶ

} といった理由づけ
が多く目につく。

第11図 不参加の理由

めての高麗祭であることを考えた時、かなりの関心と成果が認められた、といってよいだろう。また、専攻別にみた場合も、全体としての傾向とほとんど変らない。僅かに、A専攻に実行委員としての参加がない点が目につく程度である。

高麗祭に参加しなかった人の理由は第11図に示してある。「興味がない」「その期間を他に使う」など、参加しない理由としては至極平凡な答が多かった。しかし、他人から「面白くない、つまらない…ときいていたので、参加しなかった」という回答があったことは注目されよう。

第11表 男女の役割について「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という人がいます。あなたは、この考えをどう思いますか。(%)

	賛成	反対	どちらともいえない	その他
J	17.5	10.5	70.2	1.8
H	13.1	16.4	63.9	6.6
N	26.2	9.8	55.8	8.2
A	16.7	21.7	56.6	5.0
全体	18.4	14.6	61.5	5.5

C. 男女の役割や職業に対する意識

1. 男女の役割

『男女の役割について「男は外で働き女は家庭を守るべきだ」という人がいるが回答者はどう思うか』という設問を試みた。

この質問は短大の女子学生にとって自らの社会的位置づけや、性役割などを知るうえにきわめて注目されるものである。結果は第11表に示した通りである。すなわち、全体的傾向としては、どちらともいえない、と答えたものが61.5%を占め、この問題の多義的な面と、まだ、こうした問題の自覚を迫られた経験を持っていないこと、さらには比較的中庸な考え方をしている等々を示しているのではあるまいか。各専攻別にみた時、専攻の性格がかなり明確に出ていることも興味深い。最も賛成が多かったのはN専攻で、 $\frac{1}{4}$ 以上が従来の慣習を是としている。一方、H専攻は13.1%の賛成にとどまり、A専攻は、反対を明確に打ち出しているものが21.7%で最高を示したのが注目される。H専攻者は、当然、将来の自己の社会的活動を理想とするであろうし、A専攻者は、欧米の性役割をかなり抵抗なく受け入れている、とみてよいのではないだろうか。

2. 就職と職業

(1) 就業予想年数

短大生が将来就職して、どの程度の年限を働くつもりであるかについてみると、第12図のとおりの結果を得た。全体としては、「結婚相手と相談してきめる」と答えたものが36.8%で、最も多く、これに「結婚までは働く」の23%などを加えると約 $\frac{2}{3}$ は仕事を生涯のものとする考えをもっていない。「出産後も」ないしは「生涯通して」と答えたものは15.5%に過ぎない。現実には将来これがどうなるか、は別として、職業に対しての意識は、かなり“腰かけの”であり、“依存的”のようである。

また、ここでもA専攻者は、一生働くと答えたものが最も多く15.0%を占め、結婚相手に相談する、といったものは最少であった。これは職業的自立の念が高いこともあろうが、それ以上に、語学が比較的、専門職として長期にわたる職業にふさわしい技術となる、と考えているからであろう。

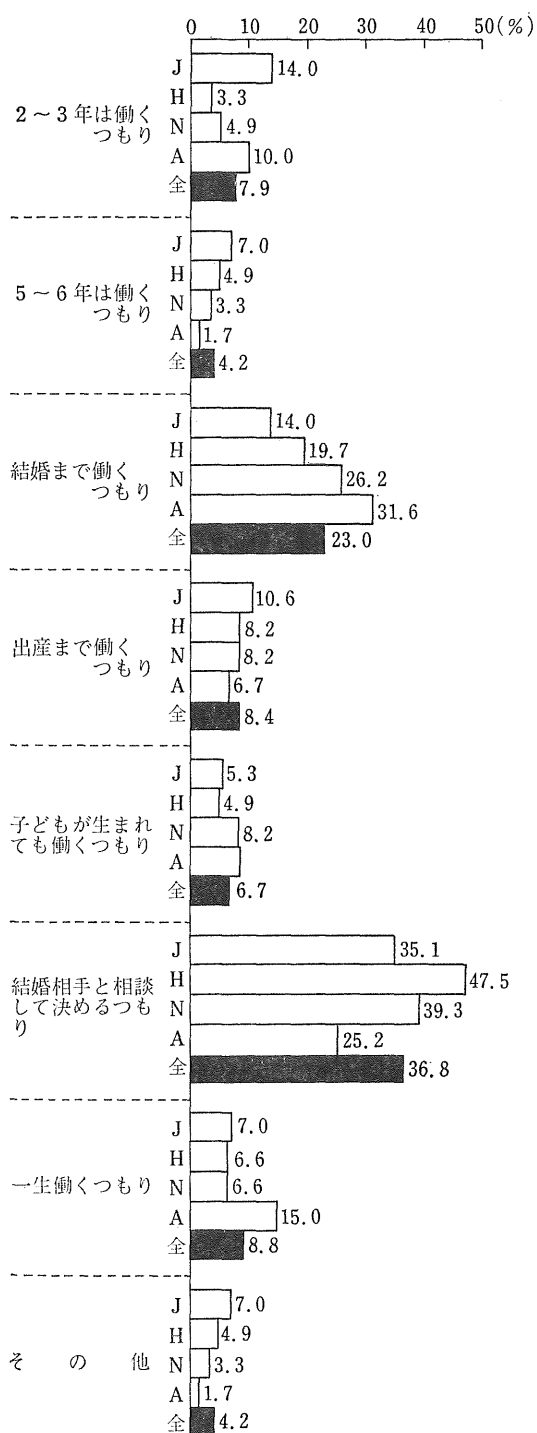
(2) 職業の選択

「あなたは、どんな職業につきたいと考えていますか」という設問に対しては、とくにこれといった特筆すべき傾向はみられなかった。専攻の性格に若干そった希望がみられるが、それも当然のことであろう。短大生の希望職種・業種は多様でグループ化をすることは困難な要素が多い。記述数の多いものから並べてみると下記の通りである。

J→一般事務、金融業、証券会社、公務員

H→一般事務、旅行業、自動車関係、マスコミ、公務員

N→一般事務、公務員、出版、金融業、福祉、マスコミ



第12図 あなたは、自分の就職についてどのように考えていますか (%)

A→金融業，一般事務，旅行業，商社，サービス，航空

なお，全体として19.2%の者が態度不明確であったが，これは調査時点においては，まだ就職に関して切実な問題として意識されていなかったことを物語っているとみることもできよう。

D. 講義や教師に対する意識

Q14は，「ふだんの勉強，特に講義や先生に対する意見について，どの程度賛成あるいは反対するか」の意識調査を行ったものである。Q14の質問項目には，かなり類似性がみられるので，学生の意識構造が把握しやすいように，まず，内容の類似するものをグループ化してから，順次グループごとに分析検討を試みたい。

質問内容の類似によるグループ化

- A. 講義に対する意識……………1, 2, 4, 10, 14
- B. 教師に対する意識……………3, 6, 9
- C. 試験と出席点に対する意識……………5, 7, 8, 11
- D. 勉強と宿題に対する意識……………12, 13
- E. ゼミ・オン・ライブに対する意識……………15

1. 講義に対する意識

最初のAグループは，講義に対する意識調査を行ったもので，問1，2，4，10，14がこれに属する。すなわち1，4，14による調査の主旨は，どれほどの学生が本学の講義は独特で，かつ社会に出て役立つものが多いと感じ，そのうえ教育機器やコンピュータを取り入れて高度な専門知識を習得したいと望んでいるかを把握することにある。また，2と10は，学生がつまこみ授業と感じているかと，いねむり学生がどれくらいいるかを調査するものである。

1. 他の短大にはない独特の講義があるのでよい。

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	8.0%	37.1%	27.0%	19.4%	8.4%

4. 本学の講義は社会に出てから役立つものが多い。

全体	4.6%	27.2%	26.4%	29.3%	12.6%
----	------	-------	-------	-------	-------

14. 教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい。 2.9%

全体	31.9%	30.7%	26.1%	8.4%	
----	-------	-------	-------	------	--

まず1では，表にみるとおり，約半数の学生が独特の授業を受講していることに満足し，約3分の1は現在のカリキュラム内容に不満をもっていることがわかる。これを専攻別にみると，JとHの場合，わずか17.6%以下の学生が不満を示しているだけなのに対し，Nが30.0%，Aが51.6%と極めて多人数が講義の特殊性を望んでいる。この傾向は，今後のカリキュラム編成に当

って留意しなければならないと思われる。

また4では、「実社会で役立つ講義が多い」と3割強の者が感じているのに対して、4割強の学生が、「役立つ」とは考えていない。この現象は、「役立つとは思わない」と答えた学生がNでは52.5%、Aでは70.0%と割高なため生じたもので、これは、女子の就職先がほとんど一般事務系という実情からも納得できる。しかし、Aの7割という数値は、就職の困難性を象徴しているといえよう。

さらに14をみると、教育機器やコンピュータ利用を望む学生が62.6%と多く、望まないのはわずか11.3%にすぎない。専攻別では、どの専攻とも望まない学生が、わずか11.5%前後の比率であるのに対して、希望数は、Aが他を離して73.4%と著しく多い。これは、一般社会におけるO A化の進展を反映したものと解することができるし、また前問1と4の調査結果を裏付けるものでもある。

さて、2の表では、つめこみの講義と意識している学生が約20.5%、そう思わない者は、その2倍強の46.5%を示している。専攻別では、「つめこみと思う」と答えた学生が最も少ないのは、Nの8.2%、反対に「つめこみと思わない」のが一番少ないのは、Aの26.7%である。

2. 本学の講義はつめこみすぎだ。

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	6.3%	14.2%	33.1%	35.6%	10.9%

10. 講義時間中にいねむりすることが多い。

	2.9%				
全体		15.5%	21.8%	39.9%	19.7%

また、10の表より授業態度をみた場合、いねむりをするものが18.4%となっているのは、講義がつまらないという意思表示とも受け取れるが、教師に対する意識の問3及び問9との関連で、検討を要するものを含んでいる。

2. 教師に対する意識

問3、6、9を含むBグループは、教師に対する意識調査で、その目的は、授業方法をどう考え、かつ厳しい授業を望んでいるか否かを知ることと、先生の人気具合を調べることにあり、その調査結果は、次表のとおりである。まず、3では、指導方法が普通であると感じている学生が、過半数を占めている反面、不満をもつ者が、23.8%いることも見逃せない。今後、学生の意欲を燃やすような特徴ある授業にするための反省資料とすべきであろう。

また6では、過半数の学生が、先生に厳しさを要求している。しかし、あとの半数の内訳をみると、「要求しない」対「どちらともいえない」の比率が、2対3となっている点が興味深い。

3. 本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい。

(非常に) (やや) (どちらともいえない) (あまり) (全然)

全体	2.9%	23.4%	49.8%	21.3%	2.5%
----	------	-------	-------	-------	------

6. 講義時間中にうるさい人には先生がきびしくすべきだ。

全体	20.5%	30.1%	28.9%	15.5%	5.0%
----	-------	-------	-------	-------	------

9. 本学には気に入らない先生が多すぎる。

全体	6.3%	13.4%	45.2%	28.9%	6.3%
----	------	-------	-------	-------	------

これは、授業に対するわがまま気分の表われであり、また、見方を変えれば、授業中話をした経験があるため消極的な結果になったものと推測することもできる。

さらに9は、「気に入らない」という漠然とした問だけに、意味のとりようによっては、千差万別の答えがでてくることが予想される。調査結果が、「普通と思う」を中心にほぼ正規分布を示しているのはそのためと考えられる。

3. 試験と出席点に対する意識

Cグループは、試験と出席点に対する意識調査で、その主旨は、苦勞せず簡単にいい成績をとることを望む学生がどれくらいいるかを調べることにあり、これには、次表に示すように問5, 7, 8, 11が属する。

5. 本学の定期試験はやさしすぎる。

(非常に) (やや) (どちらともいえない) (あまり) (全然)

全体	3.3%	7.5%	41.8%	33.1%	14.2%
----	------	------	-------	-------	-------

7. 単位を与えるときには出席点を考慮してほしい。

全体	31.4%	32.2%	23.0%	7.9%	5.4%
----	-------	-------	-------	------	------

8. 友達に代返をたのまれるのはいやだ。

全体	10.0%	16.3%	39.3%	23.8%	10.5%
----	-------	-------	-------	-------	-------

11. レポートの提出より試験の方がよい。

全体	5.9%	7.9%	36.0%	29.3%	20.9%
----	------	------	-------	-------	-------

まず5では、定期試験が「やさしい」と感じる者が10.8%に対し、そう思わないのが、47.3%と厳しく受けとめている学生が圧倒的に多い。しかしその反面、普通が、41.8%と比較的割高である点も注意しなければならない。また11では、試験よりレポートを望む学生が半数を占め、さらに7でも、「出席点を考慮してほしい」と望む学生が、63.6%と高比率を示している。これは、なるべく困難から逃れて容易に点数をとりたいとする願望の表われであり、5を裏付けるものでもある。

さて、8の表からは、代返を頼まれることに対してあまり抵抗を感じない学生が、比較的多いことに驚く。特に、「どちらともいえない」の中間派が4割あるのは、代返の経験があるためと考えられる。換言すれば、出席点を重視しつつも仲間意識が強いため、代返をすることにこだわらないという意識構造といえよう。これは、各専攻ともに差がなく、ほぼ同じ傾向を示している。

4. 勉強と宿題に対する意識

Dグループは、勉強と宿題に対する意識調査を行ったもので、問12と13がこれに属する。ここでは、学問への追究心と宿題感覚を問い、現代女子学生の特徴を把握することを目標とする。ま

12. もっと専門的なこと一つを追求して勉強したい。

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	18.8%	37.7%	31.4%	11.3%	0.8%

13. 宿題が多すぎて自分のやりたいことができない。

	0.8%			
全体	4.2%	19.2%	37.7%	38.1%

ず12では、高度な専門知識を要求する学生が、過半数以上と多い。この内訳は、Aが63.3%で最も多く、これにN59.1%、H55.7%、J50.9%が続く。この現象は、専門知識や技術を身につけ、将来の生計に役立てようとする前向きな姿勢と受けとめることができ力強い。

また13からは、ほとんどの学生が、宿題に苦しめられずに大学生活を楽しんでいる様子がうかがえる。ただAだけは、予習・復習を必要とする科目が多いためか、他の専攻に比較すれば、圧倒的に「多い」と感じている。

5. ゼミ・オン・ライフに対する意識

Eグループは、ゼミ・オン・ライフに対する意識調査で、これは、少人数制のゼミ形式で学生と先生間のコミュニケーションを図りながら情操教育を行うという趣旨で設立されたものである。15では、どれほどの学生がゼミ・オン・ライフの活動を要望しているかを調査目的とする。表では、半数近い学生がゼミ・オン・ライフの活動を強く希望している一方、「どちらともいえない」が35.1%と比較的多い。その理由は、調査日の段階では、ゼミ・オン・ライフが設立され

たばかりで、各ゼミの活動にむらがあったためと推察できる。いずれにせよ、これは、本学の特徴の一つであるので、今後、活動内容を周知徹底させながら発展させて行くことが望まれる。

15. ゼミ・オン・ライフを活発に行なってほしい。

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	20.1%	27.2%	35.1%	13.4%	4.2%

E. 日常生活の実態

Q15の設問に共通するのは、趣味・教養・レジャー志向、自己啓発・研鑽等のタイプについて学生の日常生活の身近な問題を準備したものである。

すなわち、学業時間外のいわば、オフ・タイムにおける学生の生活様式、行動形態の諸面からの回答を求めたものである。

別掲で明らかのように、質問項目には、かなり類似性があり、把握しやすいように、まずグループ化してから、順次、分析検討を進めたい。

質問内容の類似によるグループ化

- A. 教養.....9, 10, 13
- B. 趣嗜嘉好.....1, 2, 3, 14, 15
- C. スポーツ.....4, 5
- D. 行動パターン.....6, 7, 8, 12
- E. 友人関係.....11

1. 教 養

Aグループ、問9, 10, 13による調査の主旨は、学業以外の個人的教養の付加・向上に関する積極度、自主性の程度を調査するねらいである。

9. 幅広い勉強のために、図書館や講演会にはよく行く方だ。

(非常に)

(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
8.9%	30.2%	35.7%	23.8%

1%

10. 教養を高めるために、新聞や雑誌をたんねんに読む方だ。

6.8%	21.1%	35.4%	27.0%	9.7%
------	-------	-------	-------	------

13. 本屋にはめったに行かない。

2.5%

1.7%	40.1%	46.0%
------	-------	-------

問9のうち「幅広い勉強…」の語にこだわって範囲を定められず、確信のないままに回答を下

したような印象がある。全体で見ると、「どちらともいえない」と「あまり」を加算すると、65.9%を占める。

次に、10、13の両問に取り上げられた新聞、雑誌、書籍等の活字媒体に対する関心度からみると、最近の若者に共通する活字ばなれそのままに、例えば問10の「あまり」と「全然」を併せて36.7%に達しているところにその傾向がうかがわれる。

2. 趣味嗜好

Bグループ、問1、2、3、14、15による調査の主旨は、学業以外の余暇時間のうち、自己の人間性の充実を目指す趣味・嗜好に注ぐ物理的時間及び具体的な対応名をあげてその習熟の度合を測定するねらいの設問である。

1. ピアノやギターなどを自分で演奏することが好きだ。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらとも いえない)	(あまり)	(全然)
全体	22.0	29.7	21.1	15.3	11.9

2. 絵画、音楽などを鑑賞することが好きだ。

			0.4 1.3
全体	47.7	43.9	6.8

3. 茶道、華道、書道などのおけいごとを熱心に行っている。

全体	5.0	13.6	15.7	19.9	45.8
----	-----	------	------	------	------

14. 新製品が好きで、ブランドにこだわる方だ。

全体	4.6	19.0	31.6	22.8	21.9
----	-----	------	------	------	------

15. 高校時代より趣味がふえた。

全体	11.0	31.6	37.6	13.5	6.3
----	------	------	------	------	-----

問1に対し、全体の数字を見ると、「非常に」と「やや」を加えて50%に達し、音楽的嗜好が学生達の生活にとってほとんど日常化、普遍化しているとみえる。

問2＜音楽の鑑賞＞になると、同じく全体の数字の「非常に」と「やや」を加えて、90%に達する。これらから、現代若年層の日常生活における音楽の影響力の強大さが痛感される。

問3＜けいごと＞は、文中にある「熱心に」の語が圧力になったものと思われ、最も高いH、Nでも「非常に」と「やや」を加えても25%に満たない。

Aの「あまり」と「全然」を加えて76.7%の否定傾向を検討すれば、いちおう次の事由が推測

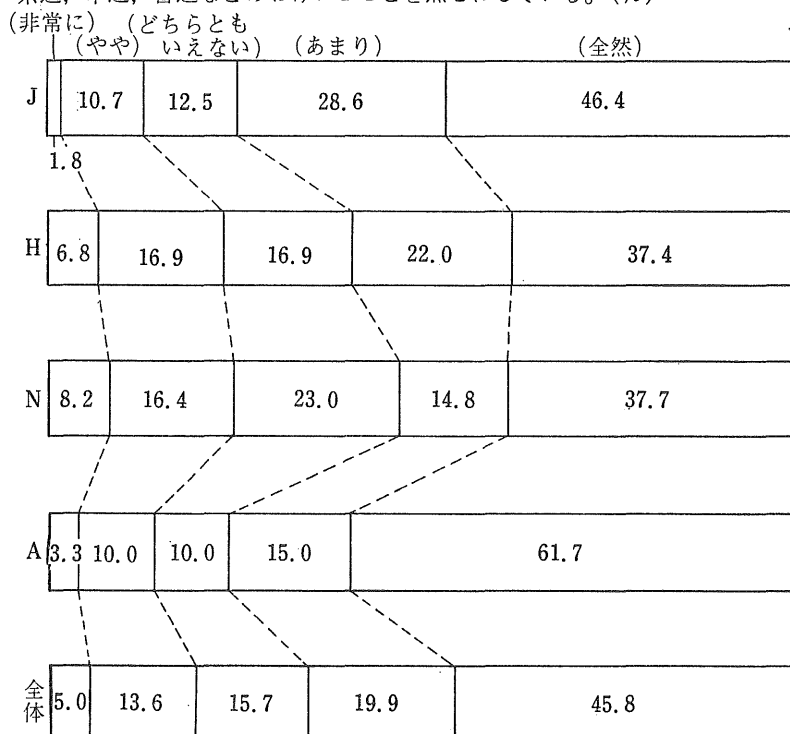
される。

英米文学専攻という前提から、純日本間風のおけいごとと、女性のたしなみ…といった古風な表現に対する拘泥心の影響。

いわゆるおけいごとと、修業、徒弟制度といった「しつけ」の厳しさに対する若干の精神的抵抗。

上記のようなおけいごとに対するイメージにまつわる及び腰のムードが、否定傾向に結びついたとみなされる。

3. 茶道、華道、書道などのおけいごとを熱心に行っている。(%)



問14については、全体の数字「どちらともいえない」31.6%「あまり」22.8%という点に集約されている。これは

「新製品が好き」と「ブランドにこだわる」のファッション志向、ブランド志向二面を含む質問のようにもとられ、学生にとって、価格の面も看過できないものがあるので、結局無難な否定傾向に落ち着いたものと判断される。

同問について、専攻別に見た場合、Aの回答で、否定的に「あまり」31.7%、「全然」25.0%の合計が60%をこえている事実は、いちおう次のような解釈がなされる。

- a 自己抑制型…Aの学科の特性上、極端なファッション志向、時代先行気質と誤解されたくないというセーブ型

b 質実剛健実用型…軽兆浮薄に堕したくないという意欲型

上記2点のような専攻学科に関連しての“控え目精神”とでも形容したい背景が感じられる。

14. 新製品が好きで、ブランドにこだわる方だ。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
J	5.4	16.1	30.4	25.0	23.1
H		21.7	41.7	18.3	15.0
N	8.2	19.7	31.1	16.4	24.6
A		18.3	23.3	31.7	25.0
全体	4.6	19.0	31.6	22.8	21.9

問15は、肯定42.6%、否定19.8%が、全体についての数値である。高校生時代においてややもすると付和雷同的になりがちな趣味嗜好の段階から、短大生らしい趣味追求への成長がみられ、これは受験勉強からの解放もその一因かと推察される。

専攻別からみると、「非常に」Jの5.4%とAの20%の差が目されるが、「やや」を加えると、39.3%と45.0%の小差となる。Hでは、「非常に」と「やや」を加えて、51.7%と数値が高いが、専攻の性格上、茶道、華道、書道などのけいこごとを、はじめたことを、趣味の範疇に加えて考えたものと思われる。

15. 高校時代より趣味がふえた。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
J	5.4	33.9	42.9	12.5	5.3
H	10.0	41.7	38.3	6.7	3.3
N	8.2	26.2	42.6	16.4	6.6
A	20.0	25.0	26.7	18.3	10.0
全体	11.0	31.6	37.6	13.5	6.3

3. スポーツ

Cグループ、問4、5による調査は、スポーツを対象とする能動（自らプレーする）受動（観戦のみ）の両面からみた実態追求を主眼とするものである。

問4の能動側は、全体で「非常に」「やや」を加えて51.1%に対し、問5の受動の同数字は66.3%と高く、行動より観戦の型がみられる。ちなみにQ9のクラブ活動参加率も、問4と同様51.1%を示している。

「受身に生きている」のが短大生だけに限らず、現代の若い女性一般の特色なのであろうか。

4. スポーツはよくする方だ。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	21.1	30.0	23.3	19.4	6.3

5. スポーツを観戦することが好きだ。

全体	26.6	39.7	19.0	8.9	5.9

4. 行動パターン

Dグループ、問6、7、8、12による調査は、いわゆる余暇時間の活用の実態を追跡調査すべく

用意されたものである。

問6では、全体で全面肯定「非常に」31.4%、全面否定「全然」0.8%の数値に対して、問7では、「非常に」3.0%、「全然」35.9%と、正反対の結果を生じている。

6. 喫茶店やハンバーガースタンドなどへよく行く方だ。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(全然)	
全体	31.4	37.7	21.6	8.4	-0.8

7. スナックやディスコにはよく行く方だ。

全体	3.0	11.8	20.3	29.1	35.9
----	-----	------	------	------	------

8. 旅行にはよく行く方だ。

全体	6.8	22.8	30.0	30.8	9.7
----	-----	------	------	------	-----

6. 喫茶店やハンバーガースタンドなどへよく行く方だ。(%)

	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(全然)	
J	35.7	33.9	21.4	9.0	-0
H	18.6	52.5	22.0	6.9	-0
N	32.8	27.9	26.2	11.5	-1.6
A	38.3	36.7	16.7	6.7	-1.7
全体	31.4	37.7	21.6	8.4	-0.8

このことは、設問に用いられた「喫茶店」や、「ディスコ」などの名称に対する若い女性独自の道徳観、潔癖感をも考慮に入れねばならず、果たして学生の実情がどの程度反映しているかを断定することは難しい。

専攻別に見て、特徴的なのはNであって、問6、問7、ともに否定的数値が高いのが注目される。

7. スナックやディスコにはよく行く方だ。(%)

(非常に) (やや) (どちらともいえない) (あまり) (全然)

J	5.4	14.3	14.3	23.2	42.8
H	11.7	20.0	38.3	26.7	
N	9.8	19.7	19.7	49.2	
A	11.6	26.7	35.0	25.0	
全体	11.8	20.3	29.1	35.9	

問8については、全体の回答で、「やや」22.8%、「どちらともいえない」30.0%という数値は、旅行という語句の解釈（たとえば、旅情本位の旅と、帰省や団体旅行などのどれをさすのか不明…）から学生側の判断の迷いも勘案される。したがって、Dグループ行動パターン要素のうち、問8は、肯定、否定の中間程度と解される。

8. 旅行にはよく行く方だ。(%)

(非常に) (やや) (どちらともいえない) (あまり) (全然)

全体	6.8	22.8	30.0	30.8	9.7
----	-----	------	------	------	-----

問12を全体の数字で見て、「非常に」22.8%、「やや」33.0%と、肯定回答が55%を超え、夜更しの傾向が強いことを読みとることができる。この傾向は、安易にして受身になりがちなマス

12. 夜おそくまで、テレビやラジオをよく楽しむ方だ。(%)

(全然)

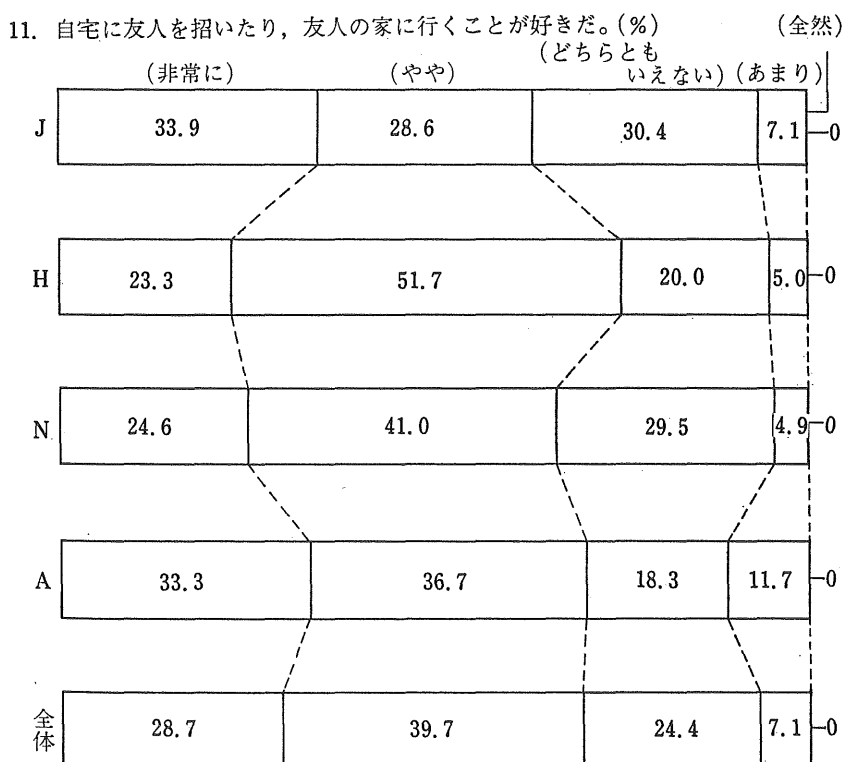
	(非常に)	(やや)	(どちらともいえない)	(あまり)	(全然)
全体	22.8	33.0	24.2	16.5	3.4

コミ情報の吸収態度をうかがわせ、また、夜おそくまでのテレビやラジオでの時間の過ごし方は、学習時間とのバランスをどのようにしているのか、気にかかるところである。

5. 友人関係

Eグループ、問11による調査は、友人関係の一端を伺い知る手段として、自宅への招待と友人宅の訪問の両面からみたものである。

全体でみると肯定68.4%の数字は、90.4%の学生が自宅から通学という（F5参照）本学の特色もあって、自宅を集いの場所とする健全、かつ常識的な友人関係の性格を端的に語っていると読みとれることもできる。なお、専攻別にみると、Hは、「非常に」23.3%、「やや」51.7%と、合計75.0%の大きな数値となり社交的であることを示している。



Q14、問8、「友達に代返を頼まれるのはイヤだ、に対し、全体で「あまり」23.8%「全然」10.5%、合計34.3%の否定派があること、Q7「生き甲斐」で「友人との交際」が43.0%とトップを占めていることとあわせて考えると、友人関係が、学生生活の中で占める役割は非常に大きい。

在学中にいっそう友情を培い、生涯を通じての友人を得られるよう援助したい。

ア ン ケ ー ト

お 願 い

この調査は、皆さんが日頃の学生生活をどのように感じ、どのような態度で送っているか、その実態と意識を分析して皆さんの学生生活の特徴を位置づけ、合わせて今後のより良い環境作りの参考に供する目的で実施するものです。調査内容は、上記の目的以外に流用されることはありませんので、ありのまま答えて下さい。

経営学科共同研究グループ

- ◇ あなた自身と環境について、あてはまるものに○印を、
必要なところにはことばを入れて下さい。

F 1 (専攻)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 経営実務専攻 | 2. 秘書専攻 |
| 3. 日本文学専攻 | 4. 英米文学専攻 |

F 2 (年齢)

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 18歳 | 2. 19歳 | 3. 20歳 |
| 4. 21歳 | 5. 22歳以上 | |

F 3 (出身高校の所在地)

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 埼玉県 | 2. 東京都 | 3. 関 東 | 4. 北海道 |
| 5. 東 北 | 6. 中 部 | 7. 近 畿 | 8. 中 国 |

9. 四 国 10. 九 州 11. 沖 縄 12. その他 ()

F 4 (居住地)

1. 埼玉県内 (市・町・村)
 2. 埼玉県外 (市・区・町・村)

F 5 (通学形態)

1. 自宅より通学
 2. 自宅以外より通学
 1. 親類宅 2. アパート・マンション (1人住まい)
 3. アパート・マンション (友人などと)
 4. その他 ()

F 6 (通学所要時間)

1. 30分未満 2. 1時間未満 3. 1時間30分未満
 4. 2時間未満 5. 2時間以上

F 7 (世帯主の職業)

1. 会社員 2. 公務員 3. 教 員 4. 農林水産業
 5. 商工自営業 6. 自由業 7. その他 ()

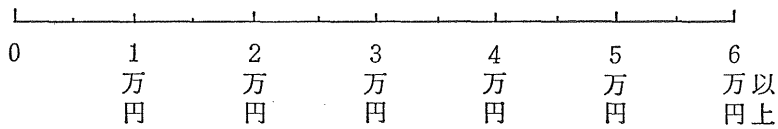
F 8 (生活程度) あなたの家庭は、世間一般からみて、次のどのへんにあてはまると思いますか。

一つだけ○印をつけて下さい。

1. 上 2. 中の上 3. 中 4. 中の下 5. 下

F 9 (おこづかい) 自分自身で自由になる (アパートなどに住んでいる人の家賃・生活費は含まない) おこづかいは、1カ月平均どのくらいですか。あてはまるところにレ印をつ

けて下さい。



F10 (よく読む新聞・雑誌名)

1. 新聞名 ()
2. 雑誌名 ()

F11 (運転免許)

1. 持っている
2. 持っていない

F12 (自分の車やバイクの所有)

1. 所有している
2. 所有していない

F13 (過去1年間のアルバイト)

1. 経験がある (ケ月) 具体的に ()
2. 経験がない

F14 (クレジット・カード)

1. 持っている
2. 持っていない

◇ 城西大学女子短期大学部（以下本学という）における講義，先生，クラブ活動，
その他の生活について，あなたの積極的な意見を聞かせて下さい。

Q1 本学は，あなたが第一に志望した大学ですか。

1. はい
2. いいえ

2.と答えた人は、実際にはどの大学を第一に志望していましたか。

()

Q2 あなたの選択した専攻分野は、あなたに適していますか。

1. 適している 2. 適していない 3. どちらともいえない

2. 3.と答えた人は、どうしてそのように思うのですか。

()

Q3 あなたは本学を何によって知りましたか。あてはまるものはいくつでも選んで下さい。

1. 先生 2. 先輩・知人 3. 親
4. 進学関係の本・雑誌 5. 広告・ポスター
6. その他 ()

4. 5.と答えた人は、具体的に ()

Q4 本学は、他の短大と比較してどの程度にランクされると思いますか。

1. 高い 2. やや高い 3. 普通
4. やや低い 5. 低い

Q5 率直に言って、現在の大学生活に満足していますか。

1. している 2. していない 3. どちらともいえない

2.と答えた人は、具体的にどんな点が不満ですか。

()

Q6 本学に対して抱いていたイメージと、入学後の実際とは一致しましたか。

1. 一致した 2. だいたい一致した
3. あまり一致しない 4. まったく一致しない
5. どちらともいえない 6. わからない

Q 7 あなたはどんなことに最も生き甲斐を感じますか。

1. 一般教育科目の勉強
2. 専攻または専門科目の勉強
3. 哲学・人生などの問題追求
4. 社会経験や教養を養うこと
5. クラブ活動など
6. 友人との交際
7. 学生生活のエンジョイ
8. その他（ ）

Q 8 あなたが、今一番に力を入れてやりたいが出来ないことはなんですか。

1. 勉強
2. 友人との交際
3. クラブ活動
4. 先生とのコミュニケーション
5. 家族とのコミュニケーション
6. 趣味・娯楽
7. アルバイト
8. その他（ ）

Q 9 あなたは、現在、学内で何らかのクラブなどに所属していますか。

1. 所属している
2. 所属していない

1と答えた人

(SQ 1) あなたの所属するクラブは、次のどれにあてはまりますか。

- | | | |
|------------------|-----------|-----------|
| ア. 体育系クラブ | イ. 文化系クラブ | ウ. 体育系同好会 |
| エ. 文化系同好会 | オ. 体育系愛好会 | カ. 文化系愛好会 |
| キ. 短大の会（俳句・書道など） | | |

2と答えた人

(SQ 2) 学内のクラブに所属しない理由を、あてはまるものは、いくつでも選んで下さい。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 経済的な理由 | 2. 自由な時間がなくなる |
| 3. 勉強と両立しない | 4. アルバイトと両立しない |
| 5. 集団活動がきらい | 6. 適したクラブがない |

7. クラブ活動の現状に不満 8. 健康上の理由
 9. 学外のクラブなどに入っている（具体的に ）
 10. 家族の反対 11. その他（ ）

Q10 高麗祭へ参加しましたか。

1. 実行委員として参加 2. クラブで参加
 3. 一般学生として参観 4. まったく参加しなかった
 4. と答えた人

（SQ 3）参加しなかった理由を選んで下さい。

1. 興味がないから
 2. その期間を他の目的に使うため。できれば具体的に（ ）
 3. その他（ ）

Q11 男女の役割について「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という人がいます。あなたは、この考えをどう思いますか。

1. 賛 成 2. 反 対
 3. どちらともいえない 4. その他（ ）

Q12 あなたは、自分の就職についてどのように考えていますか。

1. 2～3年は働くつもり 2. 5～6年は働くつもり
 3. 結婚まで働くつもり 4. 出産まで働くつもり
 5. 子どもが生まれても働くつもり 6. 結婚相手と相談して決めるつもり
 7. 一生働くつもり 8. その他（ ）

Q13 あなたは、どんな職業につきたいと考えていますか。

業種や職種など、なるべく詳しく記入して下さい。

（ ）

Q14 以下にかかげてある、ぶだんの勉強、特に講義や先生に対する意見について、あなたはどの程度賛成あるいは反対しますか。あてはまるところに○印をつけて下さい。

	非常に (あてはまる)	やや (あてはまる)	どちらともいえない	あまり (あてはまらない)	全然 (あてはまらない)
1. 他の短大にはない独特の講義があるのでよい					
2. 本学の講義はつめこみすぎだ					
3. 本学の先生の指導はとても親切でわかりやすい					
4. 本学の講義は社会に出てから役立つものが多い					
5. 本学の定期試験はやさしすぎる					
6. 講義時間中にうるさい人には先生がきびしくすべきだ					
7. 単位を与えるときには出席点を考慮してほしい					
8. 友達に代返をたのまれるのはいやだ					
9. 本学には気に入らない先生が多すぎる					
10. 講義時間中にいねむりすることが多い					
11. レポートの提出より試験の方がよい					
12. もっと専門的なこと一つを追求して勉強したい					
13. 宿題が多すぎて自分のやりたいことができない					
14. 教育機器やコンピュータを講義にもっと利用してほしい					
15. ゼミ・オン・ライフを活発に行なってほしい					

Q15 次にかかげてある事柄について、あなた自身はどの程度あてはまると思いますか。

あてはまるところに○印をつけて下さい。

		非常に (あてはまる)	やや (あてはまる)	どちらともいえない	あまり (あてはまらない)	全然 (あてはまらない)
1.	ピアノやギターなどを自分で演奏することが好きだ					
2.	絵画、音楽などを鑑賞することが好きだ					
3.	茶道、華道、書道などのおけいごとを熱心に行っている					
4.	スポーツをよくする方だ					
5.	スポーツを観戦することが好きだ					
6.	喫茶店やハンバーガースタンドなどへよく行く方だ					
7.	スナックやディスコにはよく行く方だ					
8.	旅行にはよく行く方だ					
9.	幅広い勉強のために、図書館や講演会にはよく行く方だ					
10.	教養を高めるために、新聞や雑誌をたんねんに読む方だ					
11.	自宅に友人を招いたり、友人の家に行くことが好きだ					
12.	夜おそくまで、テレビやラジオをよく楽しむ方だ					
13.	本屋にはめったに行かない					
14.	新製品が好きで、ブランドにこだわる方だ					
15.	高校時代より趣味がふえた					

ご協力どうもありがとうございました